

江戸川区次世代育成支援 のための基礎調査報告書

－ 概 要 版 －

平成21（2009）年8月

江 戸 川 区

目 次

I. 調査の構成と概要	1
1. 調査実施の目的	1
2. 各調査の構成と概要	1
3. 概要版を読むにあたっての注意	1
II. 調査結果のポイント	2
III. 調査結果	3
1. 家族の状況	3
(1) 家族形態	3
(2) 子どもの人数	3
(3) 祖父母等の親族との近居の状況	5
(4) 住宅形態	5
2. 父と母の状況	7
(1) 父親の就労形態	7
(2) 母親の就労形態	7
(3) 就労形態による家族類型	8
3. 乳幼児の養育状況、保育サービス等の利用状況・利用意向	9
(1) 保育サービスの利用状況・利用意向	9
(2) 病児・病後児保育の必要性	11
(3) 一時的な支援の必要性	11
(4) 泊りがけでの支援の必要性	12
(5) ファミリー・サポート・センターの利用状況・利用意向	13
(6) 子育てひろばの利用状況・利用意向	14
4. 小学生の日常生活と学童クラブ等の利用状況・利用意向	15
(1) 食事のとり方	15
(2) 平日の起床時間と就寝時間	16
(3) 健やかな成長のために重要と思うこと	17
(4) すくすくスクールとすくすくスクール内学童クラブの利用状況・利用意向	18
5. 仕事と子育ての両立のために企業に望むこと	20
6. 子育てに対する感じ方	21
7. 地域における子育て支援	23
(1) 地域のつながりの必要性に対する意識	23
(2) 希望する子育て支援の場や活動	24
8. 江戸川区の子育て支援サービス・環境	25
(1) 子育てに関する情報の希望入手方法	25
(2) 子育てのために重視する環境	26
(3) 江戸川区の子育て環境に対する評価	27
(4) 子育てのために重視する環境と子育て環境に対する評価の比較	28

Ⅰ. 調査の構成と概要

1. 調査実施の目的

本調査は、江戸川区における子育ての実態を把握するとともに、次世代をにやう子どもたちが健やかに生まれ、育成される環境を整備していくための施策等のあり方について区民の意見を把握し、「次世代育成支援行動計画（後期計画）」（平成 22～26 年度）を策定するために必要な基礎資料を得るために実施したものである。

2. 各調査の構成と概要

調査名	①江戸川区子ども家庭実態・意識調査 (乳幼児の保護者)	②江戸川区子ども家庭実態・意識調査 (小学生の保護者)
調査対象者	・0～6歳の就学前の子どものいる保護者 ・抽出元：住民基本台帳 (平成21年4月1日現在)	・小学生の子どものいる保護者 ・抽出元：住民基本台帳 (平成21年4月1日現在)
調査方法	・郵送配布・郵送回収 ・ハガキによる督促1回	・郵送配布・郵送回収 ・ハガキによる督促1回
調査期間	・平成21年4月8日～4月24日	・平成21年4月8日～4月24日
対象者数 及び 回収結果	・A：対象者数：2,500票 ・B：有効回収数：1,660票 ・C：有効回収率：66.4% ※ $C = B / A \times 100$	・A：対象者数：2,000票 ・B：有効回収数：1,331票 ・C：有効回収率：66.6% ※ $C = B / A \times 100$

3. 概要版を読むにあたっての注意

- ・図表中の「回答者数」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答比率(%)の母数をあらわしている。
- ・本報告書に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り「%」(回答比率)をあらわしている。回答比率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

II. 調査結果のポイント

- 子育て家庭の多く(8割以上)が、核家族世帯
- 乳幼児のいる家庭は専業主婦(夫)家庭が多い
→0~2歳の低年齢児の多くは家庭で養育されている
- 乳幼児の保護者、小学生の保護者とも半数以上が、「子育ては楽しいと感じることの方が多い」と回答している
(「つらいと感じることの方が多い」は3%台)
- 乳幼児の保護者、小学生の保護者とも9割以上が、子育てをするには「地域のつながりが必要」と感じている
- 子育て環境について、乳幼児の保護者、小学生の保護者とも、「子育てしやすい」との評価が高い
(約9割が、江戸川区は「子育てしやすい」と回答)
- 具体的には、「公園・広場」「健診や医療体制」、及び「子育て支援サービス・施設」(乳幼児の保護者)、「学校等の教育施設」(小学生の保護者)に対する評価が高い
- 重視する子育て環境は、「公園・広場」「安心・安全な環境」「健診や医療体制」が上位3位
- 「安心・安全な環境」は、8割以上が重視しているのに対し、評価が大きく下回っている
- 「子育てと仕事の両立を支援する環境」は、重視している割合に対し、評価している割合が低い

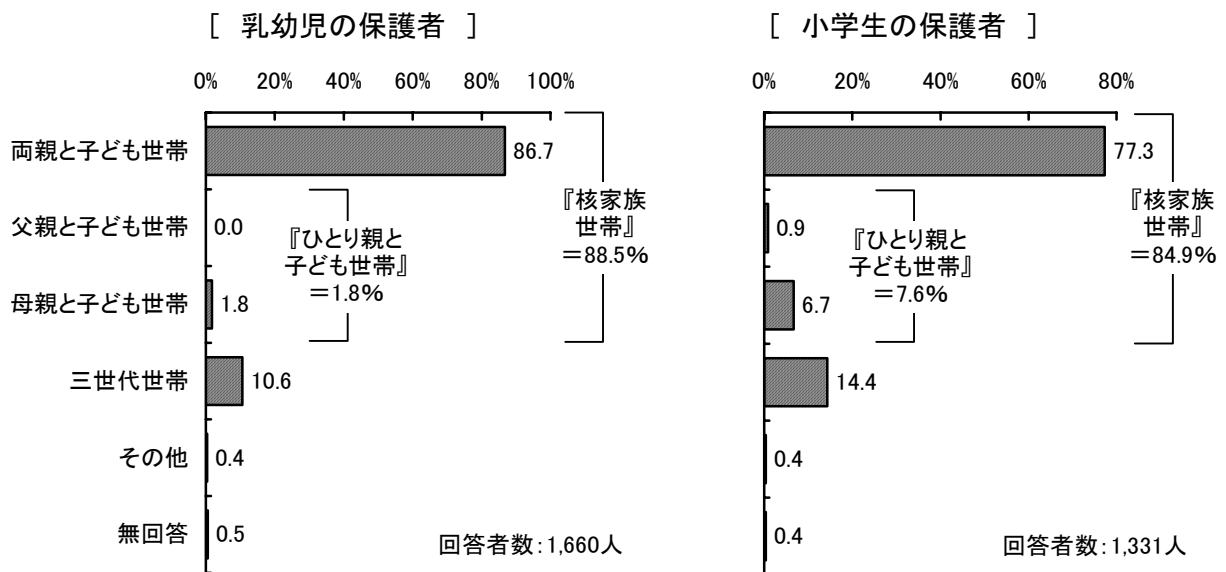
Ⅲ. 調査結果

1. 家族の状況

(1) 家族形態

乳幼児のいる家庭の88.5%、小学生のいる家庭の84.9%が、両親(またはひとり親)と子どもからなる「核家族世帯」。葛西地域居住者では9割を超える。

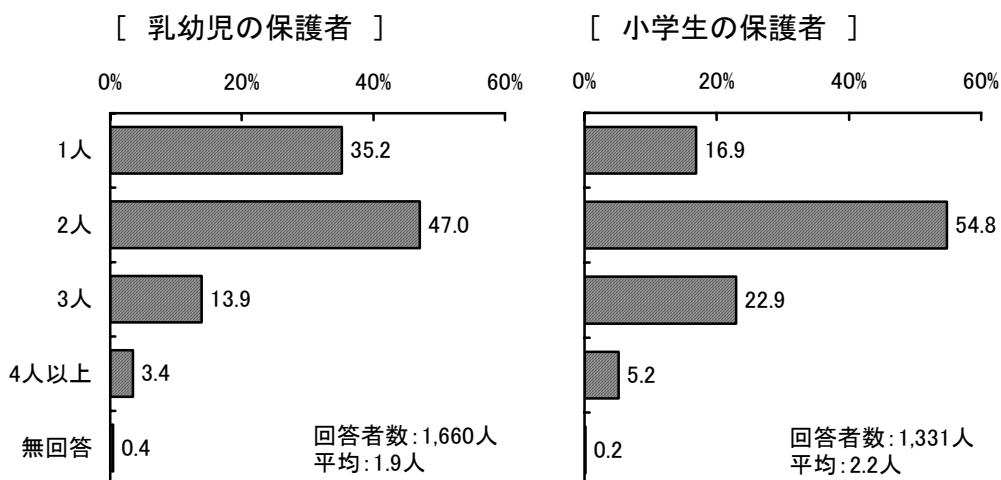
図表1 家族形態(単数回答)



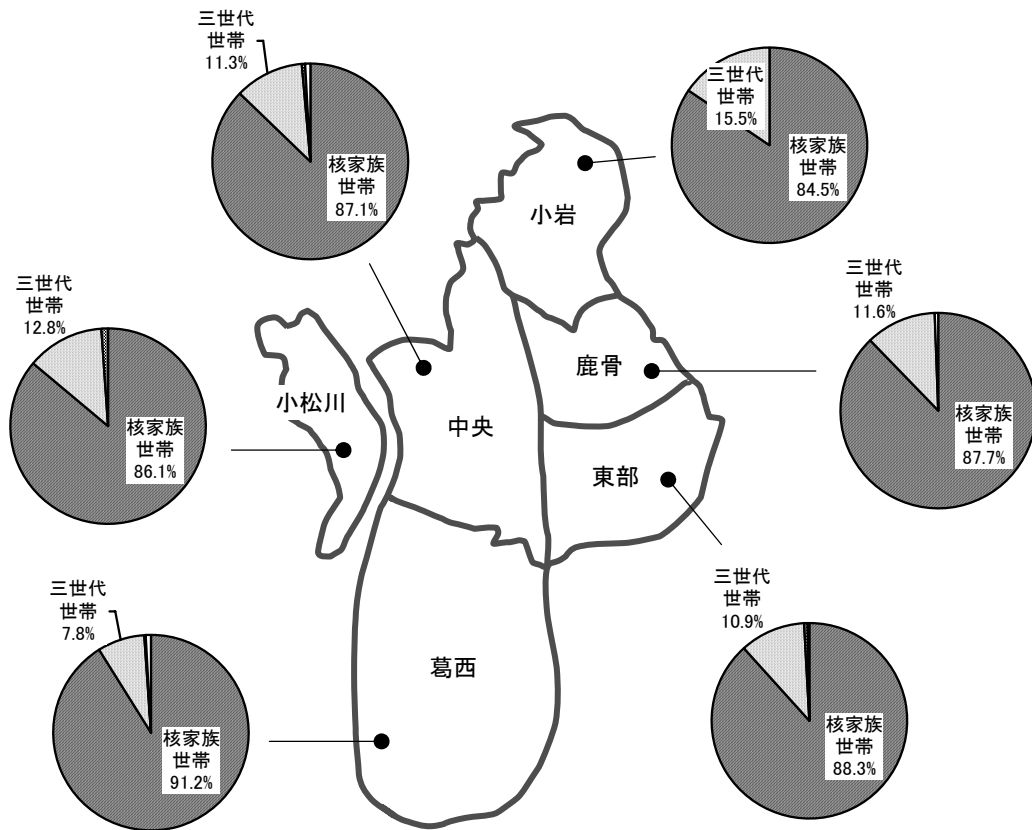
(2) 子どもの人数

子どもの人数の平均は、乳幼児のいる家庭が1.9人、小学生のいる家庭が2.2人。

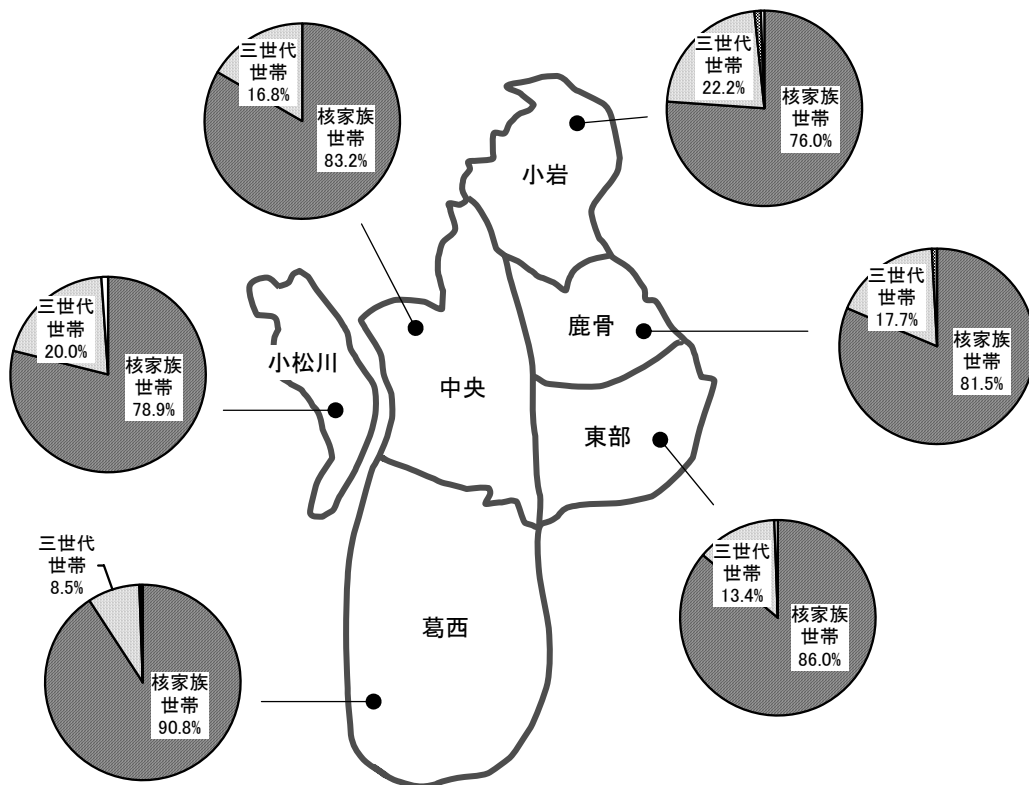
図表2 子どもの人数(単数回答)



図表 3 居住地域別にみた、家族形態（乳幼児のいる家庭）



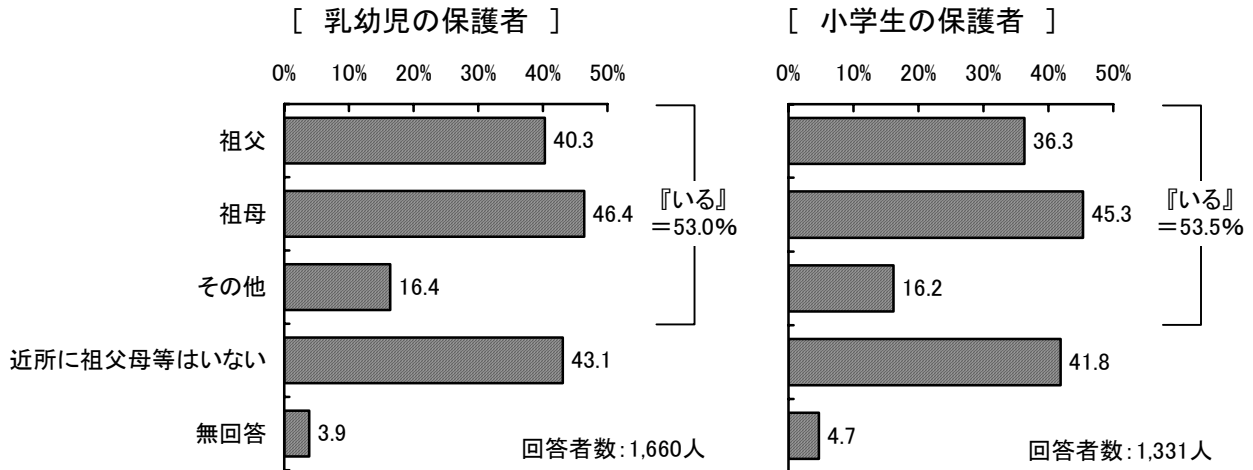
図表 4 居住地域別にみた、家族形態（小学生のいる家庭）



(3) 祖父母等の親族との近居の状況

近所に祖父母等の親族が暮らしている割合は、乳幼児・小学生のいる家庭とも半数を超える。

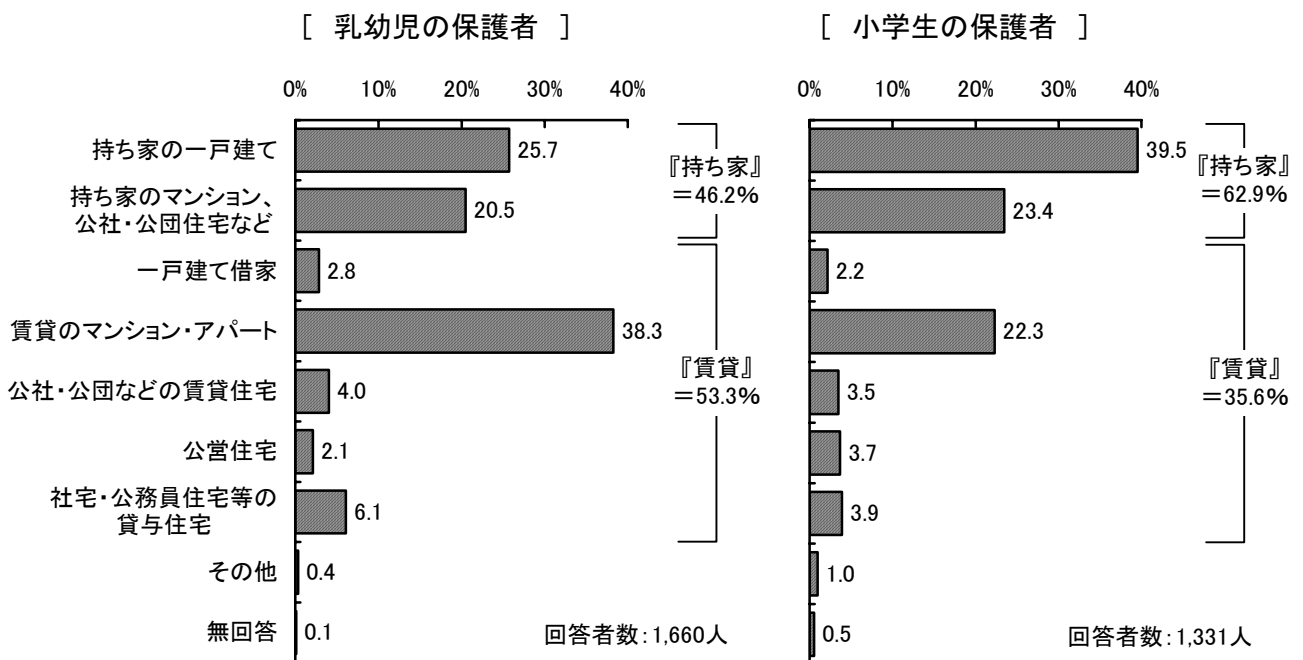
図表5 祖父母等の親族との近居の状況(複数回答)



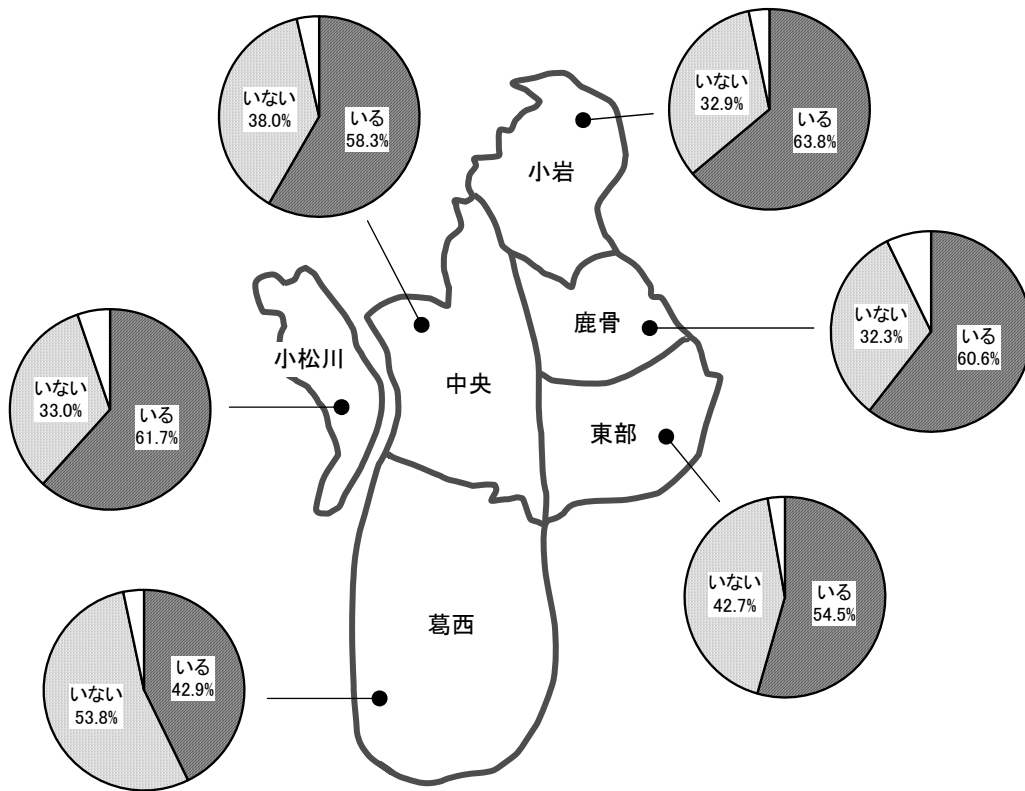
(4) 住宅形態

乳幼児のいる家庭の持ち家率は4割台であり、過半数は賃貸住宅で暮らしている。
小学生のいる家庭の持ち家率は6割台。

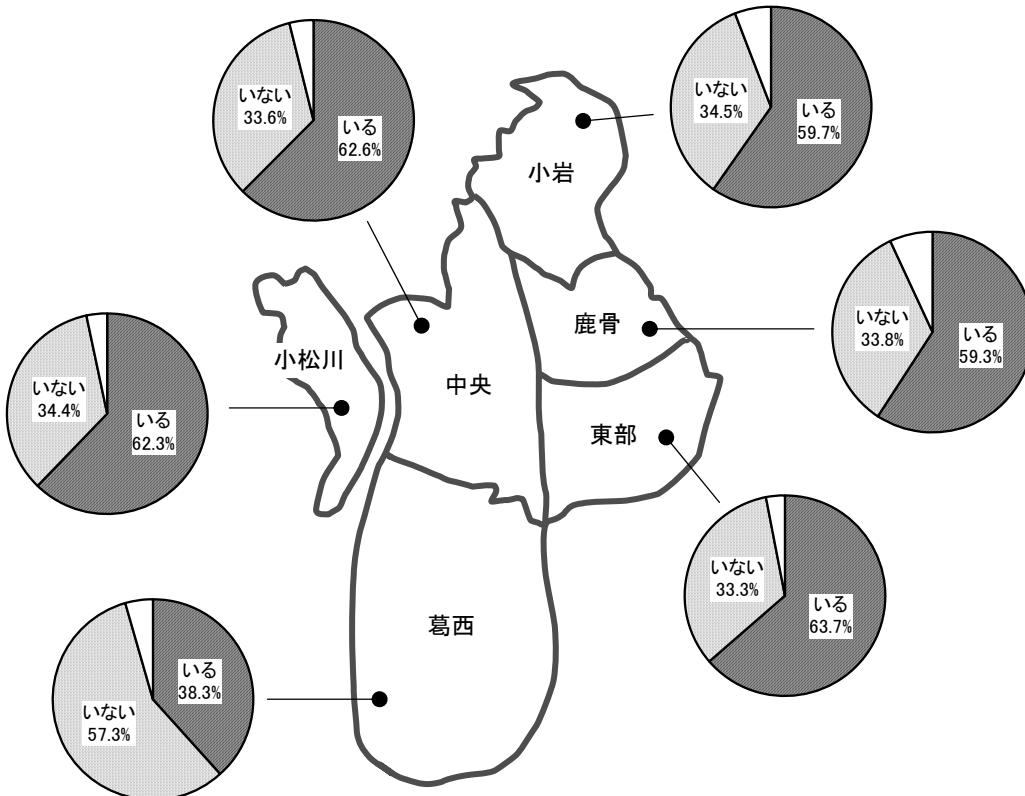
図表6 住宅形態(単数回答)



図表 7 居住地域別にみた、祖父母等の親族との近居の状況（乳幼児のいる家庭）



図表 8 居住地域別にみた、祖父母等の親族との近居の状況（小学生のいる家庭）

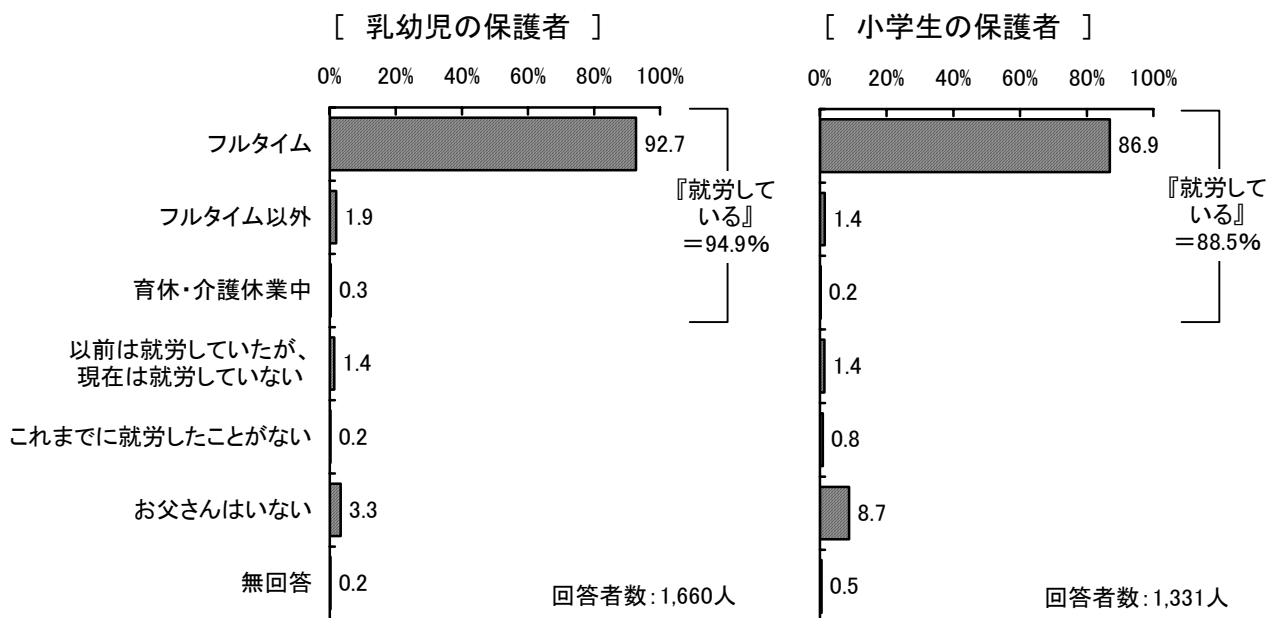


2. 父と母の状況

(1) 父親の就労形態

乳幼児・小学生の父親とも、ほとんどが「フルタイム」で働いている。

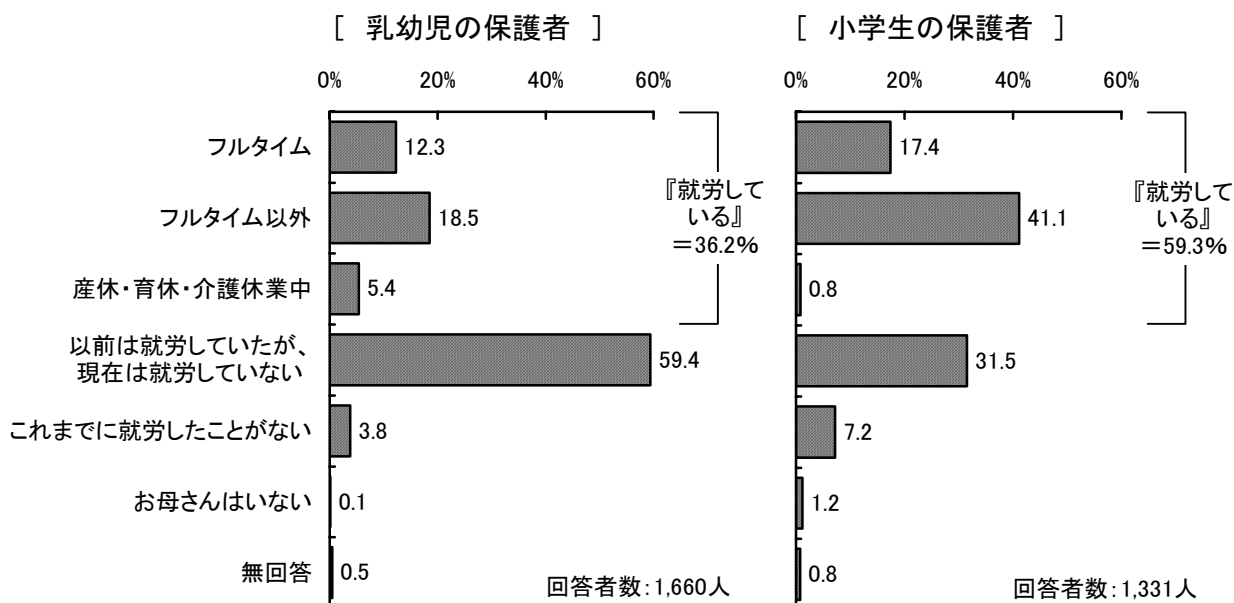
図表 9 父親の就労形態(単数回答)



(2) 母親の就労形態

乳幼児の母親の就労率は3割台であり、6割強は就労していない専業主婦。
小学生の母親の就労率は約6割にUP。働き方は多くが「フルタイム以外」。

図表 10 母親の就労形態(単数回答)



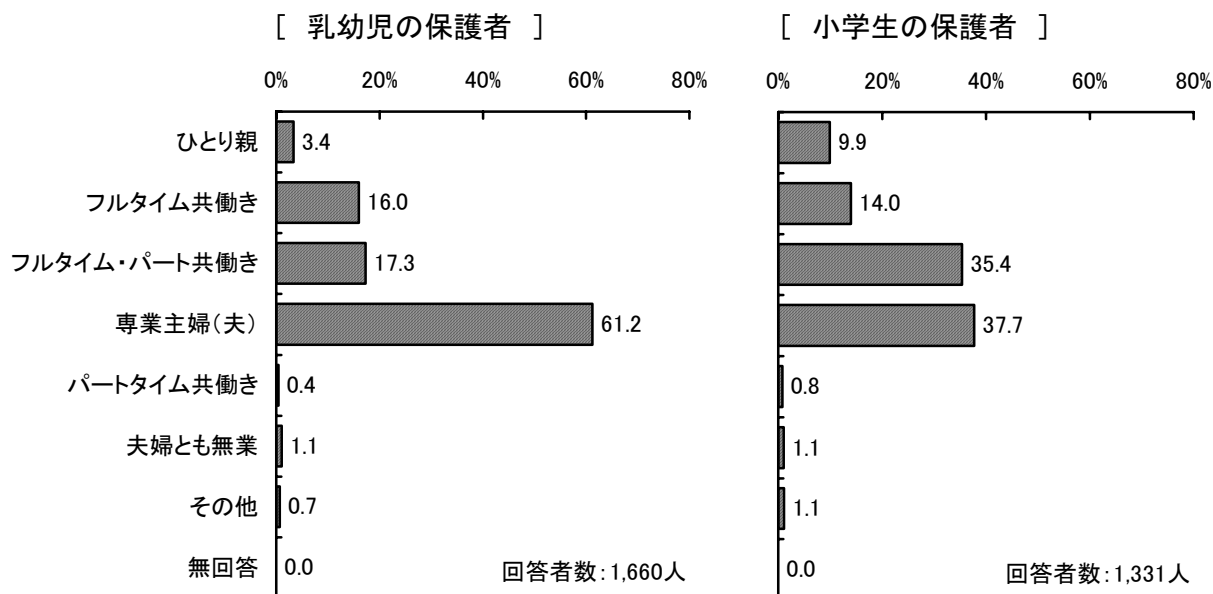
(3) 就労形態による家族類型

乳幼児のいる家庭は、「専業主婦(夫)」家庭が6割強を占める。

小学生のいる家庭になると、「専業主婦(夫)」家庭は4割弱に低下し、「フルタイム・パート共働き」が3割台を占める。

子どもの年齢が高くなると「フルタイム・パート共働き」家庭の割合が高くなるが、「フルタイム共働き」家庭の割合は大きくは変わらない。

図表 11 就労形態による家族類型(単数回答)



3. 乳幼児の養育状況、保育サービス等の利用状況・利用意向

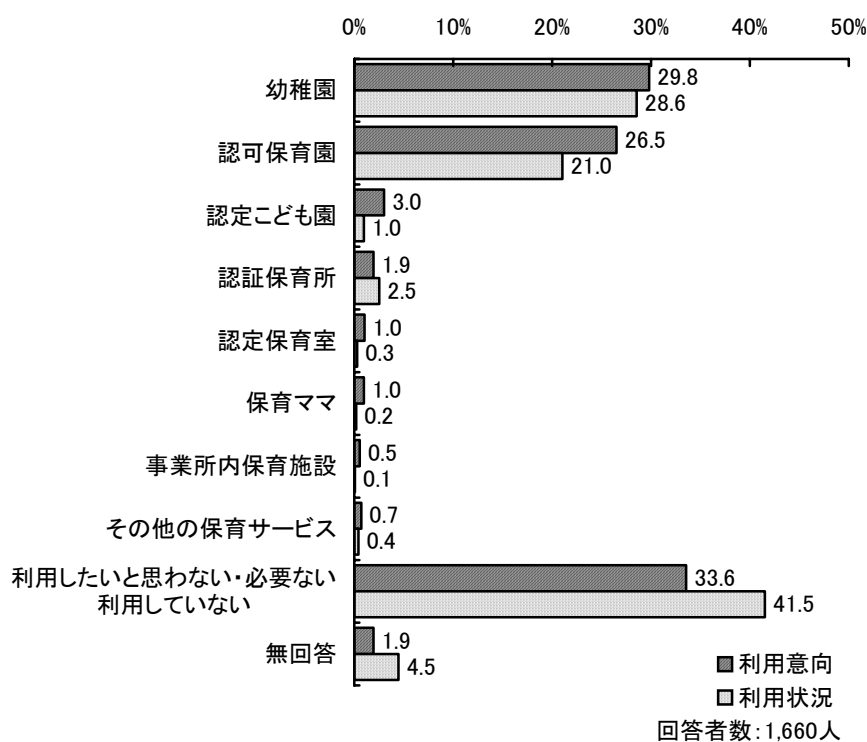
(1) 保育サービスの利用状況・利用意向

乳幼児の4割強(0歳児は8割台、1・2歳児は6割台)が、保育サービスを利用せず、家庭で養育されている。

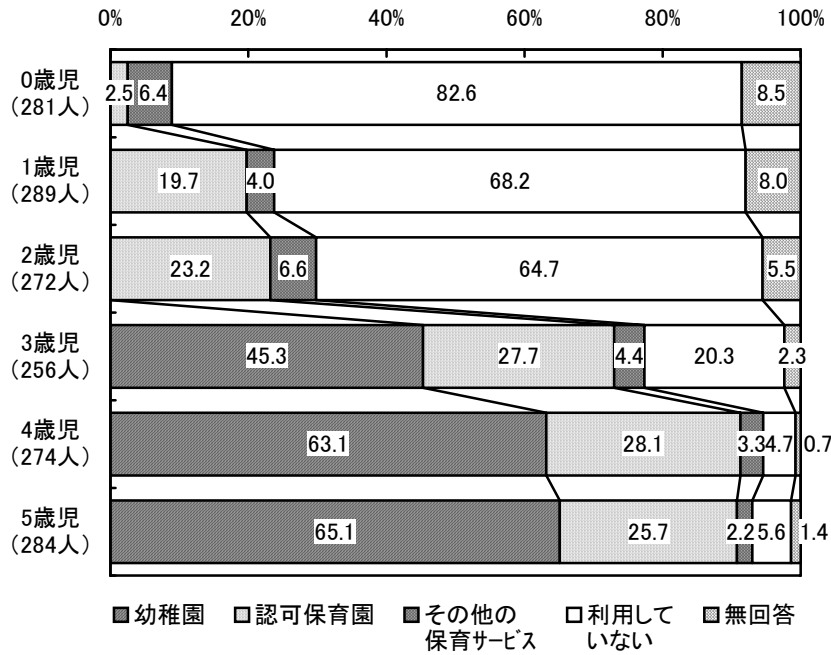
利用している保育サービスは、「幼稚園」28.6%がもっとも高く、次いで「認可保育園」21.0%。

希望をみると、保育サービスを「利用したいと思わない・必要ない」(家庭で養育する)は3割台となる。「幼稚園」利用希望者は、現在の利用状況に比べて1.2ポイント増の29.8%、「認可保育園」利用希望者は5.5ポイント増の26.5%。

図表 12 保育サービスの利用状況・利用意向(各単数回答)

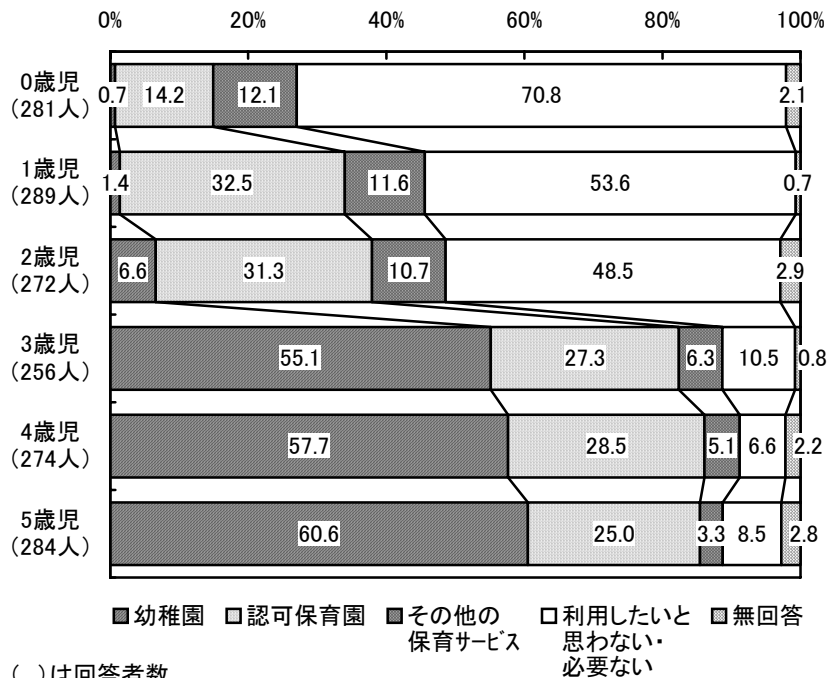


図表 13 子どもの年齢別にみた、保育サービスの利用状況



()は回答者数

図表 14 子どもの年齢別にみた、保育サービスの利用意向



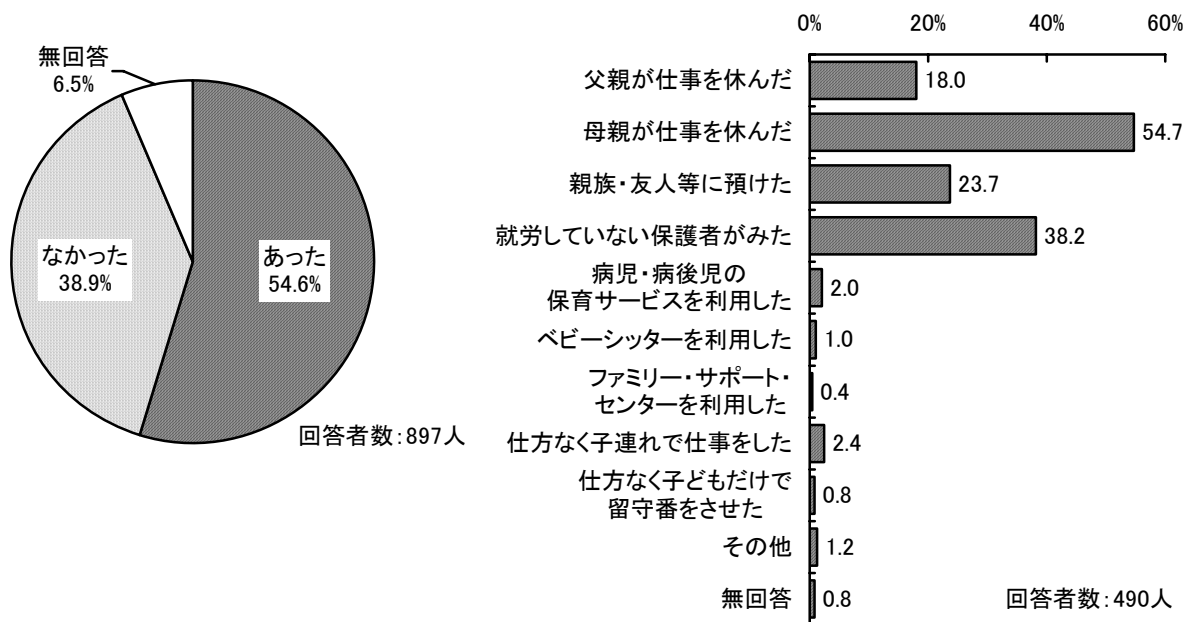
()は回答者数

(2) 病児・病後児保育の必要性

保育サービス(幼稚園を含む)利用者の 54.6%、半数強は病気等で保育サービスを利用できなかった経験が「あった」と回答。

その際の対応としてもっとも多いのは「母親が仕事を休んだ」54.7%。

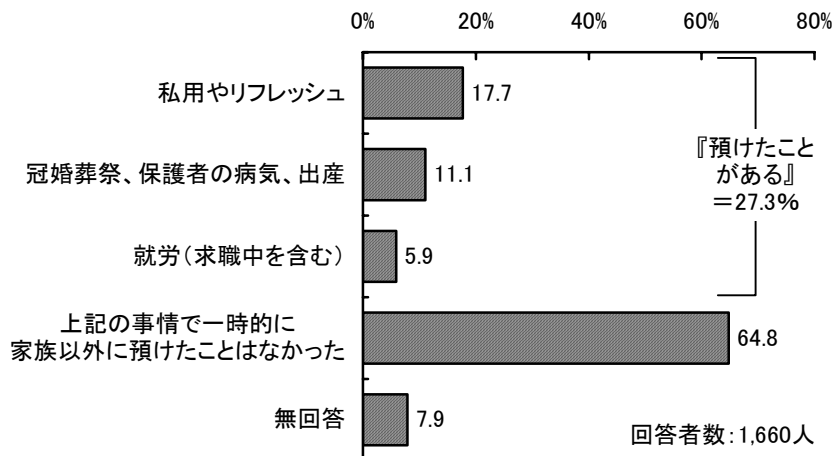
図表 15 病気等で保育サービスを利用できなかった経験(単数回答)・その際の対応(複数回答)



(3) 一時的な支援の必要性

乳幼児の保護者の 27.3%が、子どもを一時的に家族以外に「預けたことがある」と回答。

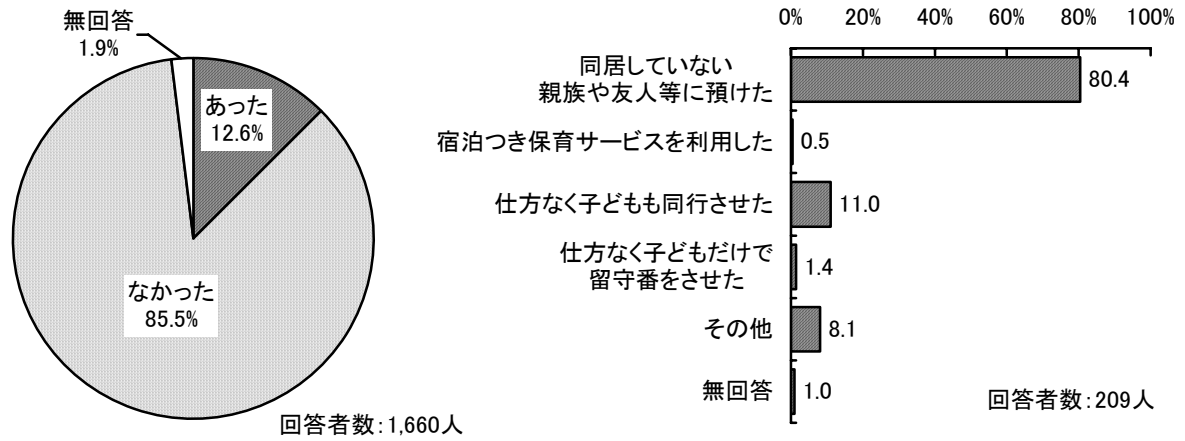
図表 16 子どもを一時的に家族以外に預けた経験(複数回答)



(4) 泊りがけでの支援の必要性

乳幼児の保護者の12.6%が、子どもを泊りがけで家族以外に預けた経験が「あった」と回答。

図表 17 子どもを泊りがけで家族以外に預けた経験(単数回答)・具体的な対応(複数回答)



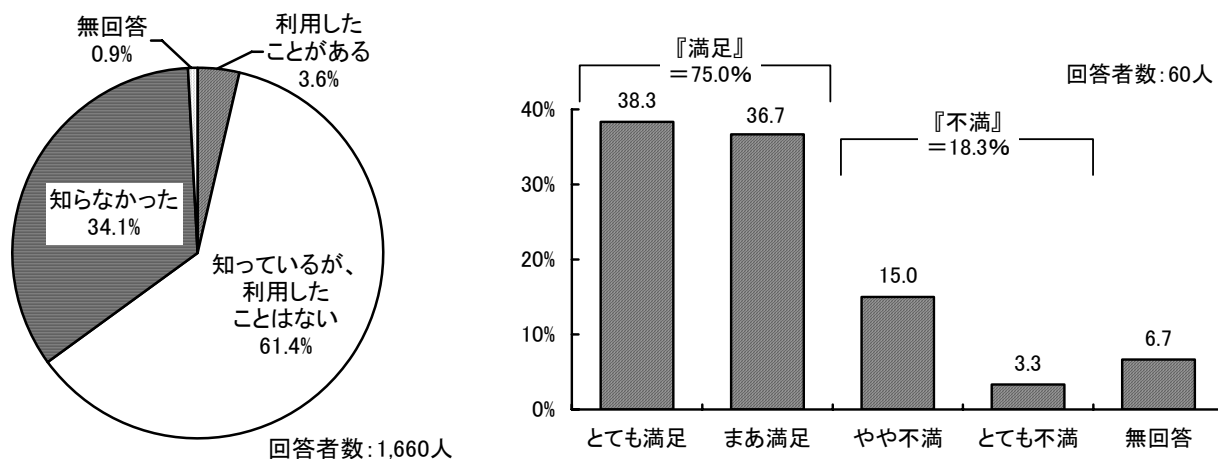
(5) ファミリー・サポート・センターの利用状況・利用意向

3割台が「知らなかった」と回答しており、認知度は65.0%。特に、保育サービスを利用せず家庭で養育している人の認知度が低い。

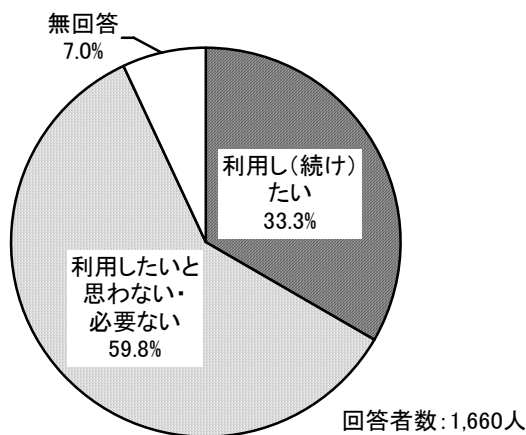
利用者の4人に3人が「満足」と回答している。

利用経験率3.6%に対して、33.3%が利用意向を示している。

図表 18 ファミリー・サポート・センターの利用経験(単数回答)・満足度(単数回答)



図表 19 ファミリー・サポート・センターの利用意向(単数回答)



(6) 子育てひろばの利用状況・利用意向

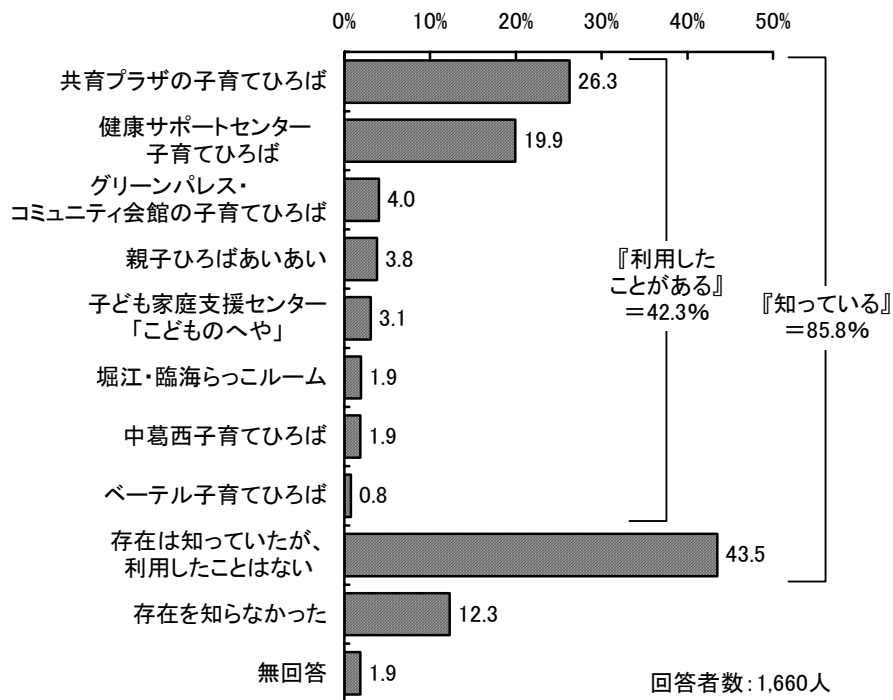
認知度は 8 割台と高い。

利用経験率は 42.3%(家庭で養育している人では 5 割台)。

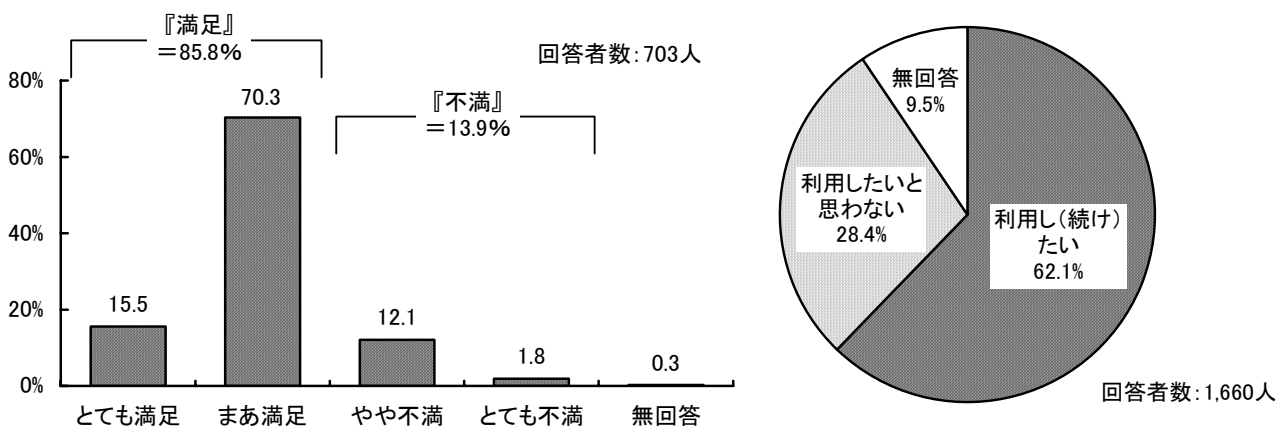
利用経験者の 8 割台が「満足」と回答している。

利用意向を示したのは 62.1%(家庭で養育している人では 7 割台)。

図表 20 子育てひろばの利用経験(複数回答)



図表 21 子育てひろばの満足度(単数回答)・利用意向(単数回答)

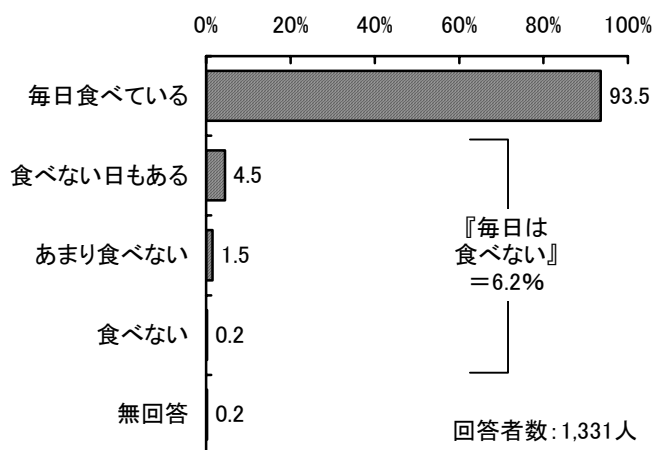


4. 小学生の日常生活と学童クラブ等の利用状況・利用意向

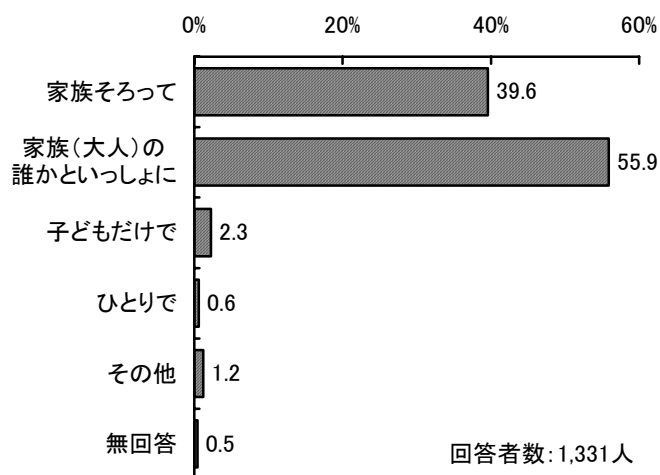
(1) 食事のとり方

小学生の6.2%が朝食を「毎日食べない」と回答。
夕食のとり方は、「家族(大人)の誰かといっしょに」が55.9%と過半数を占める。

図表 22 朝食の摂取状況(単数回答)



図表 23 夕食のとり方(単数回答)

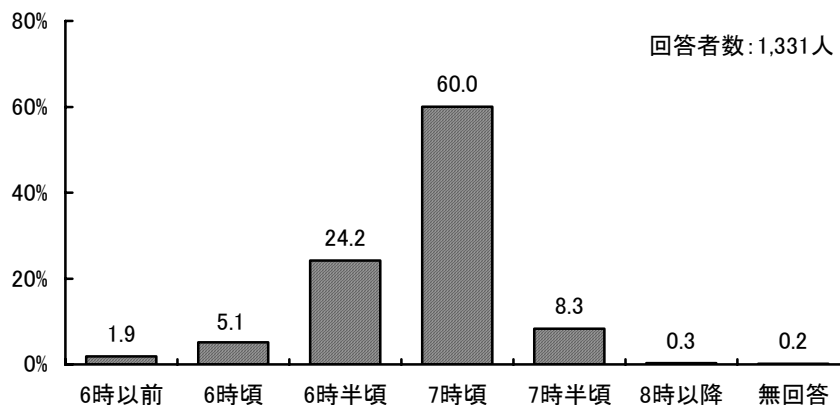


(2) 平日の起床時間と就寝時間

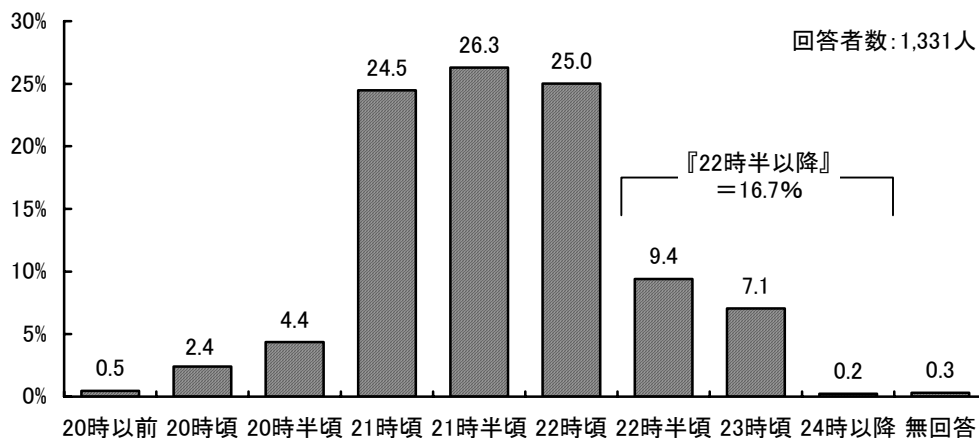
起床時間は6割が「7時頃」。

就寝時間は16.7%が「22時半以降」。学年が高くなるほど割合は高く、6年生では約4割が22時半以降に就寝している。

図表 24 平日の起床時間(単数回答)



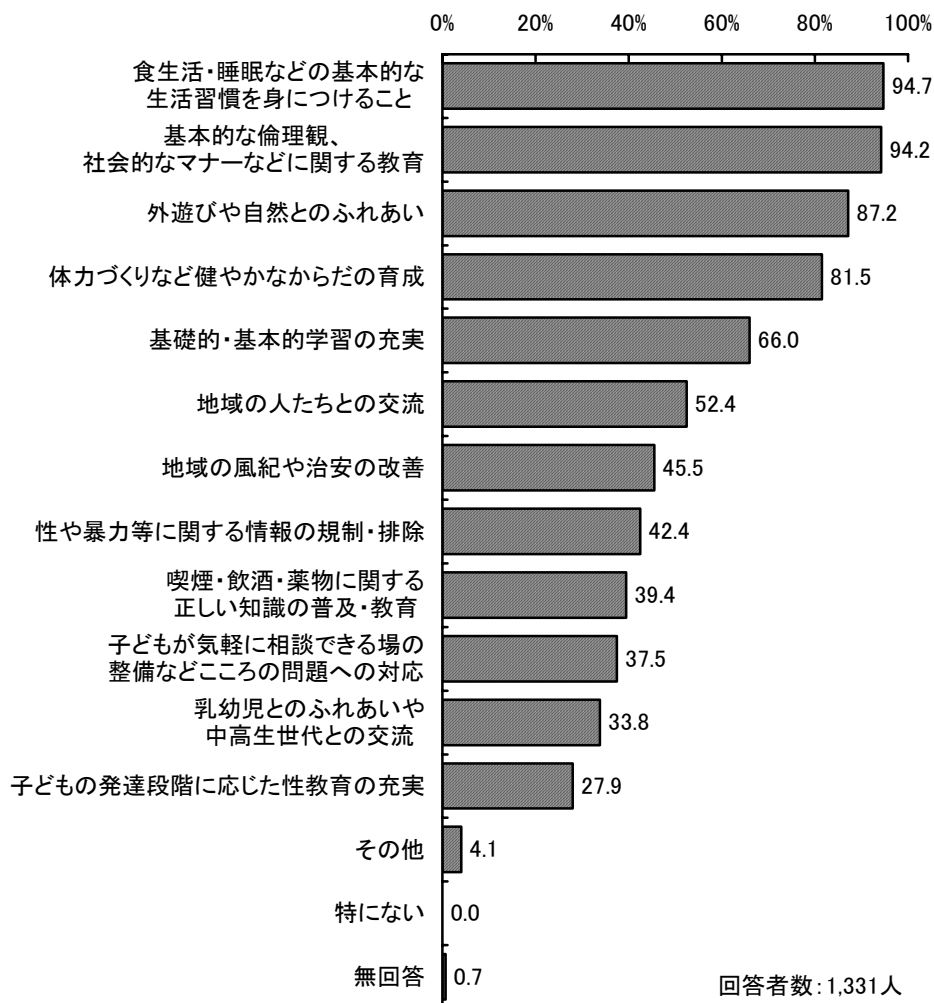
図表 25 平日の就寝時間(単数回答)



(3) 健やかな成長のために重要と思うこと

「食生活・睡眠などの基本的な生活習慣を身につけること」「基本的な倫理観、社会的なマナーなどに関する教育」「外遊びや自然とのふれあい」が、子どもの健やかな成長のために重要と思うことの上位3位。

図表 26 健やかな成長のために重要と思うこと(複数回答)



(4) すくすくスクールとすくすくスクール内学童クラブの利用状況・利用意向

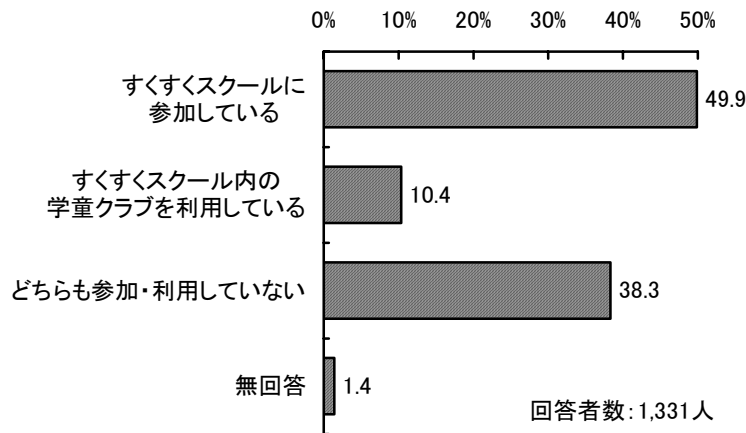
すくすくスクールは参加率 49.9%に対して、53.1%が参加を希望。

(1年生に関しては、参加率 22.9%に対して、64.2%が参加を希望)

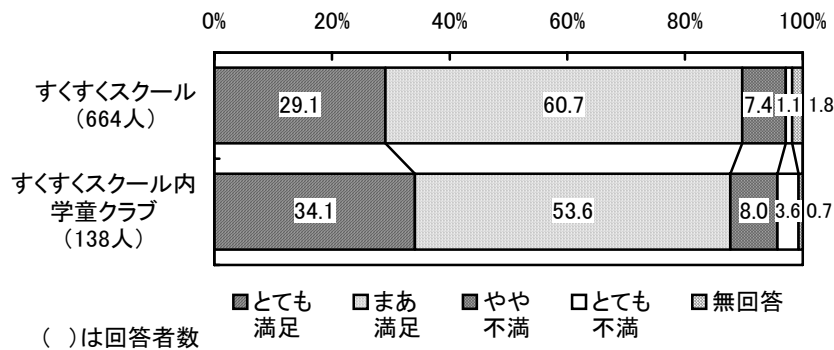
学童クラブは 10.4%の利用率に対して、11.5%が利用を希望。

すくすくスクール、学童クラブとも、利用者の 9 割近くが「満足」と回答している。

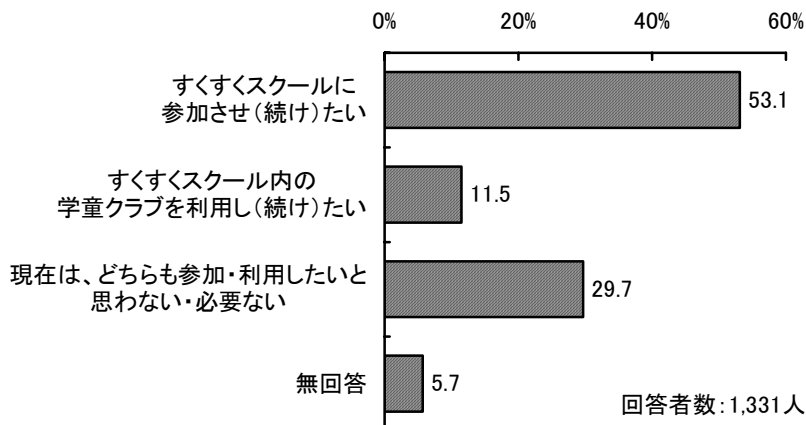
図表 27 すくすくスクールの利用状況(単数回答)



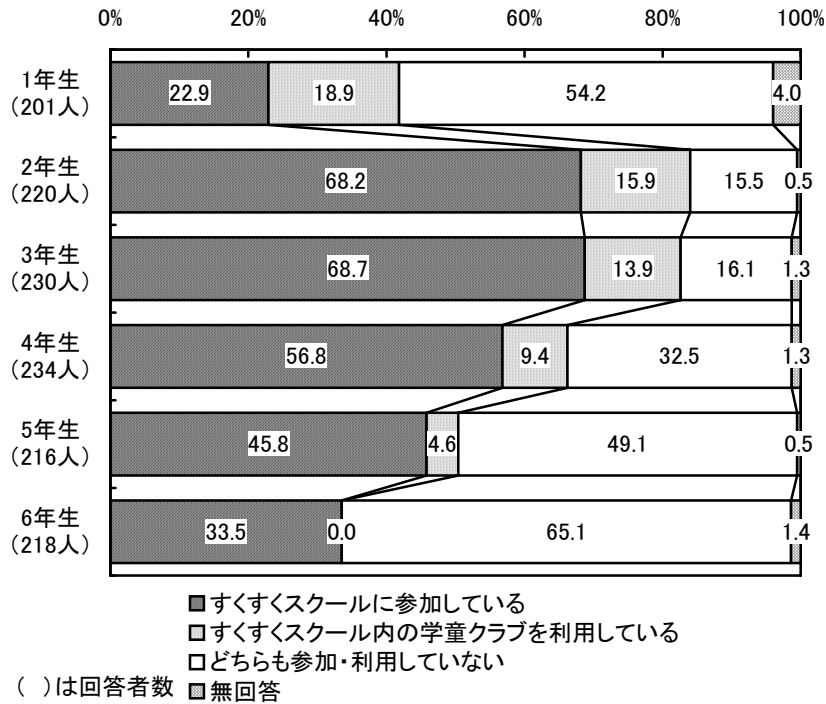
図表 28 すくすくスクールの満足度(単数回答)



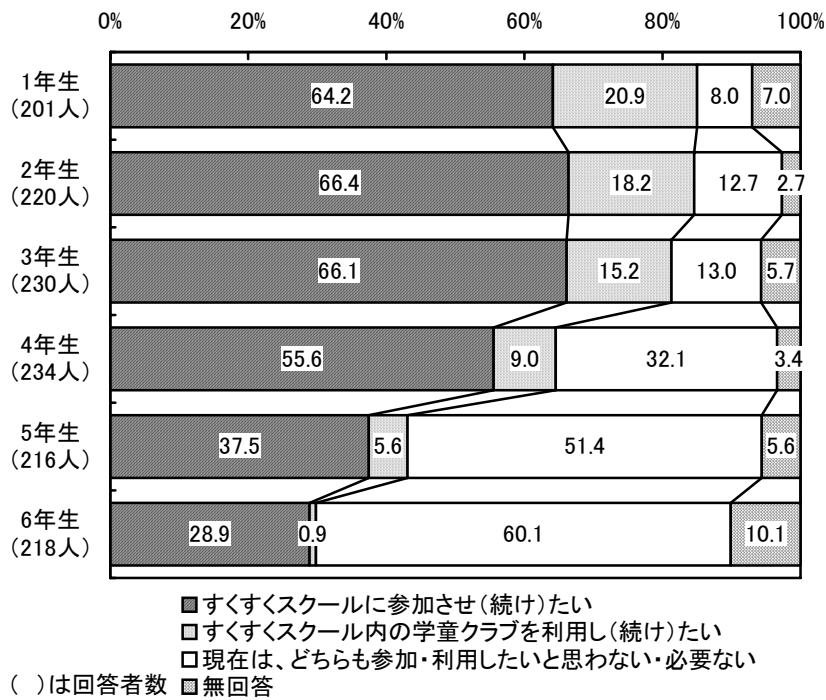
図表 29 すくすくスクールの利用意向(単数回答)



図表 30 子どもの学年別にみた、すくすくスクールの利用状況



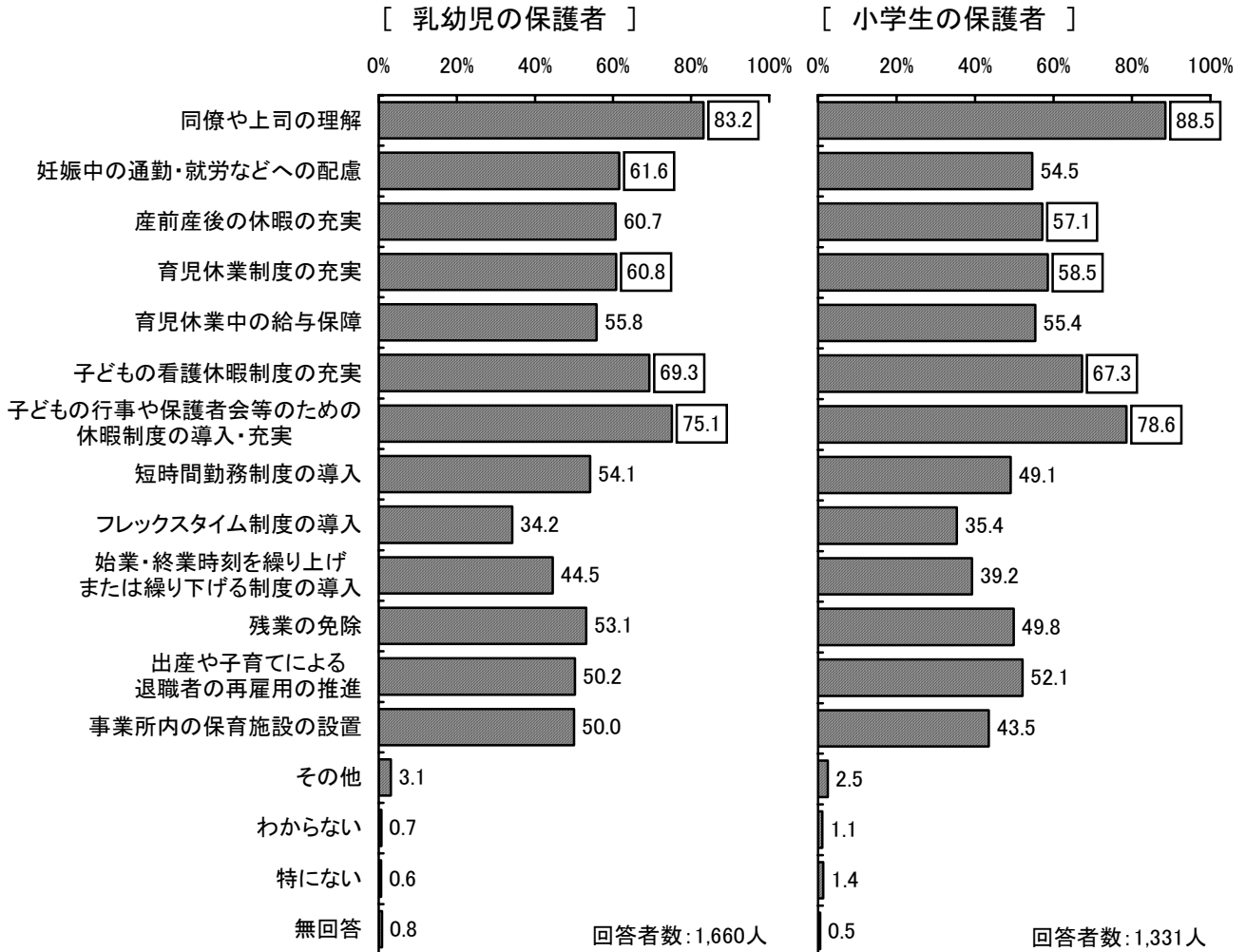
図表 31 子どもの学年別にみた、すくすくスクールの利用意向



5. 仕事と子育ての両立のために企業に望むこと

「同僚や上司の理解」「子どもの行事や保護者会等のための休暇制度の導入・充実」「子どもの看護休暇制度の充実」が、仕事と子育ての両立のために企業に望むことの上位3位。

図表 32 仕事と子育ての両立のために企業に望むこと(複数回答)



※: 囲みは、各調査の上位5位の値

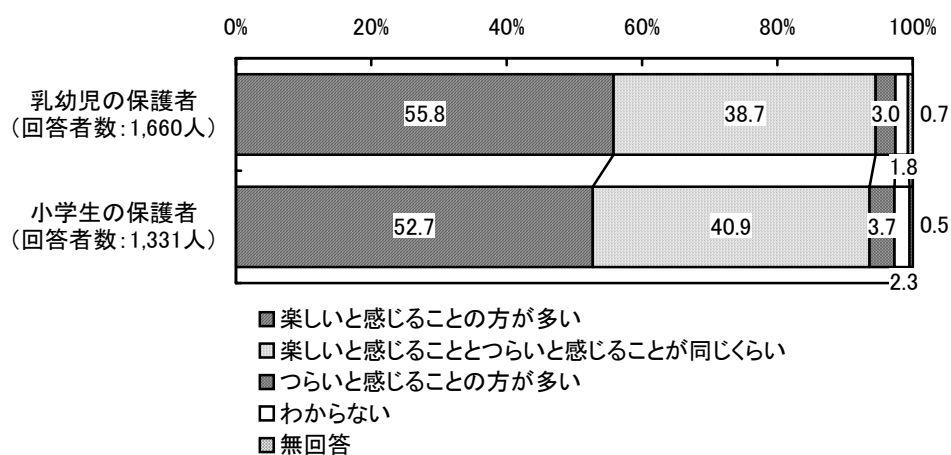
6. 子育てに対する感じ方

乳幼児、小学生の保護者とも半数以上が子育ては「楽しいと感じることの方が多い」と回答。

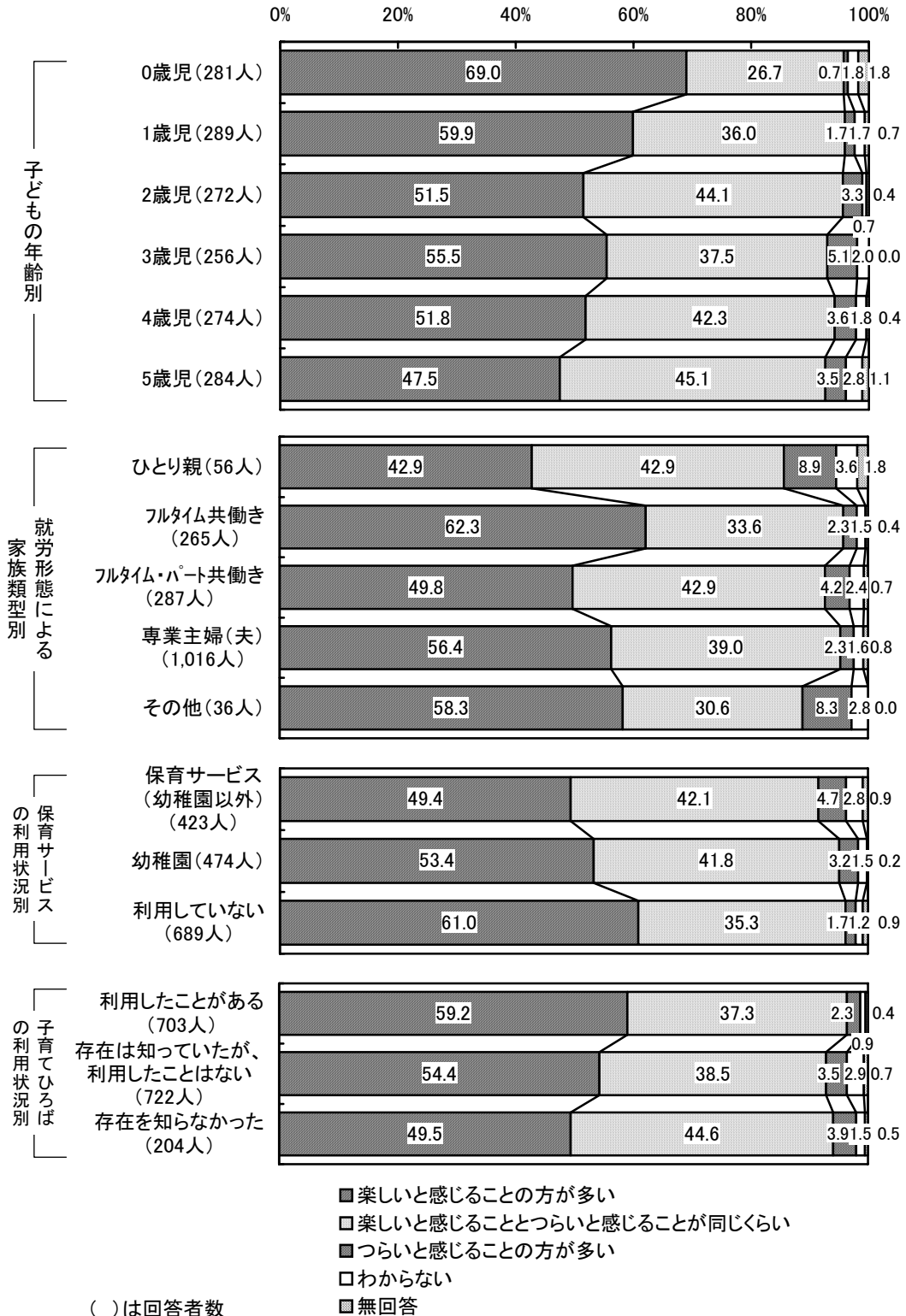
乳幼児の保護者のうち、子どもが 0・1 歳児の人、フルタイム共働きの人、保育サービスを利用せず家庭で養育している人、子育てひろばを利用したことがある人に、「楽しいと感じることの方が多い」と回答した人の割合が高い。

反対に、ひとり親家庭の人は、他に比べて「つらいと感じることの方が多い」と回答した人の割合が高い。

図表 33 子育てに対する感じ方(単数回答)



図表 34 子育てに対する感じ方（乳幼児の保護者）

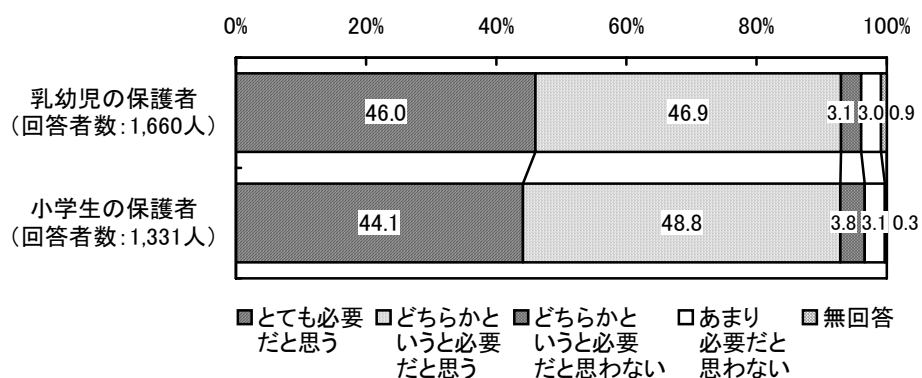


7. 地域における子育て支援

(1) 地域のつながりの必要性に対する意識

乳幼児、小学生の保護者とも9割以上が、子育てをするには地域のつながりが「必要だと思う」と回答。

図表 35 地域のつながりの必要性に対する意識(単数回答)

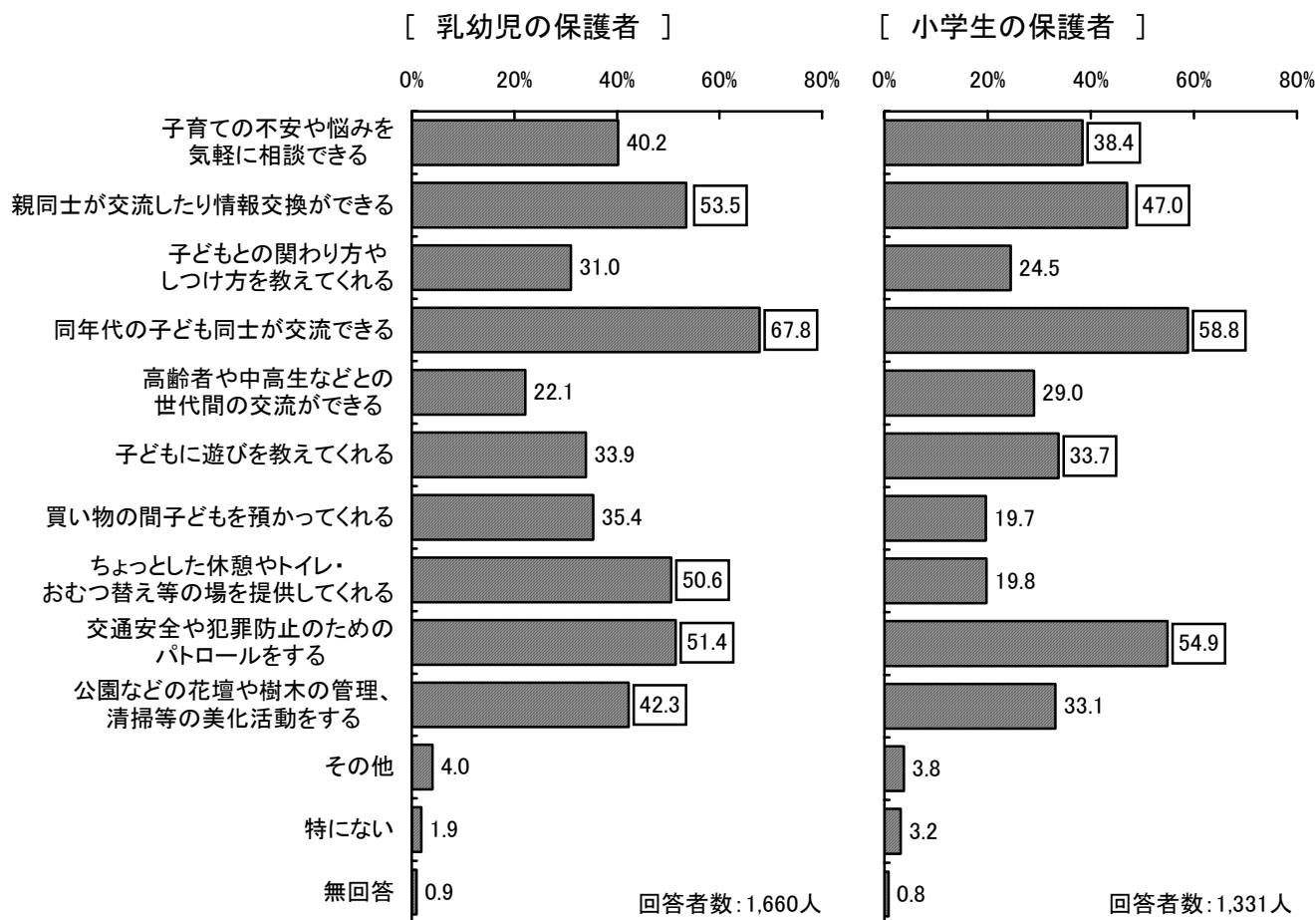


(2) 希望する子育て支援の場や活動

希望する子育て支援の場や活動は、「同年代の子ども同士が交流できる」「親同士が交流したり情報交換ができる」「交通安全や犯罪防止のためのパトロールをする」が上位3位。

「ちょっとした休憩やトイレ・おむつ替え等の場を提供してくれる」「買い物の間子どもを預かってくれる」は、乳幼児の保護者、小学生の保護者で希望に大きな隔りがある。

図表 36 希望する子育て支援の場や活動(複数回答)



※: □ 囲みは、各調査の上位5位の値

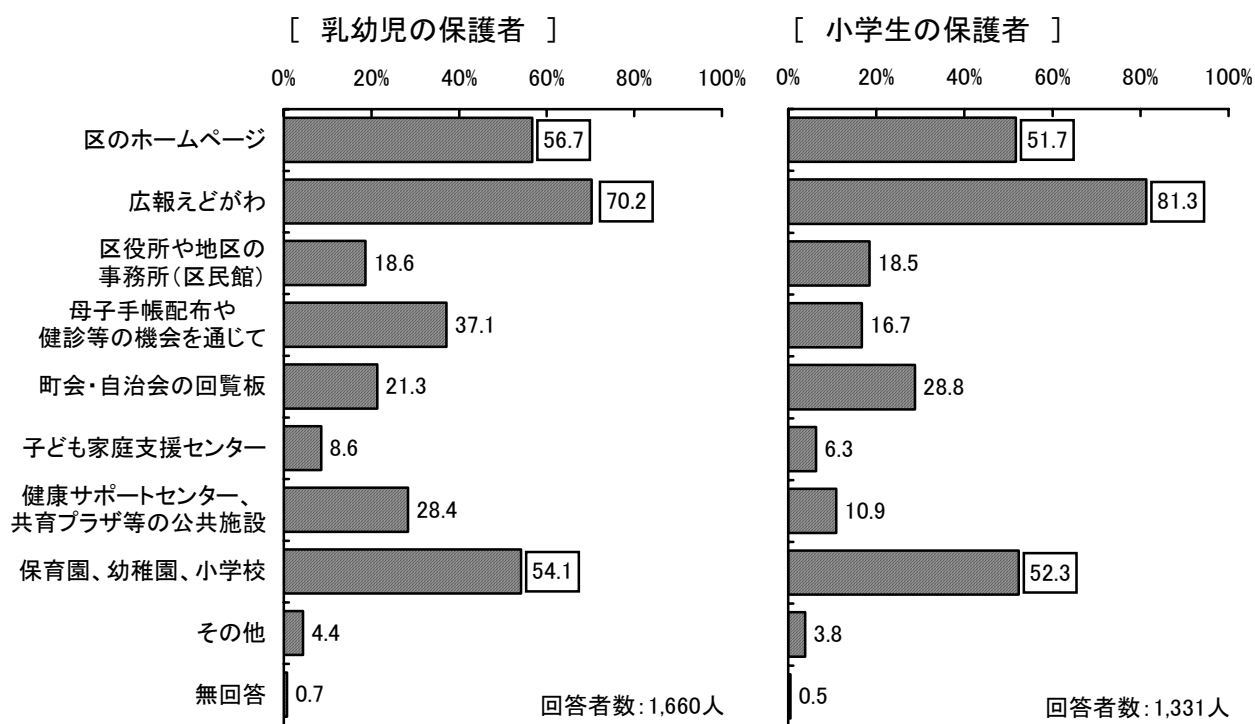
8. 江戸川区の子育て支援サービス・環境

(1) 子育てに関する情報の希望入手方法

乳幼児の保護者が希望する情報入手方法は、「広報えどがわ」「区のホームページ」「保育園や幼稚園」が上位3位。

小学生の保護者では、「広報えどがわ」「小学校」「区のホームページ」が上位3位。
 広報のほか、身近な施設・機会を通じた情報提供への意向が高い。

図表 37 子育てに関する情報の希望入手方法(複数回答)



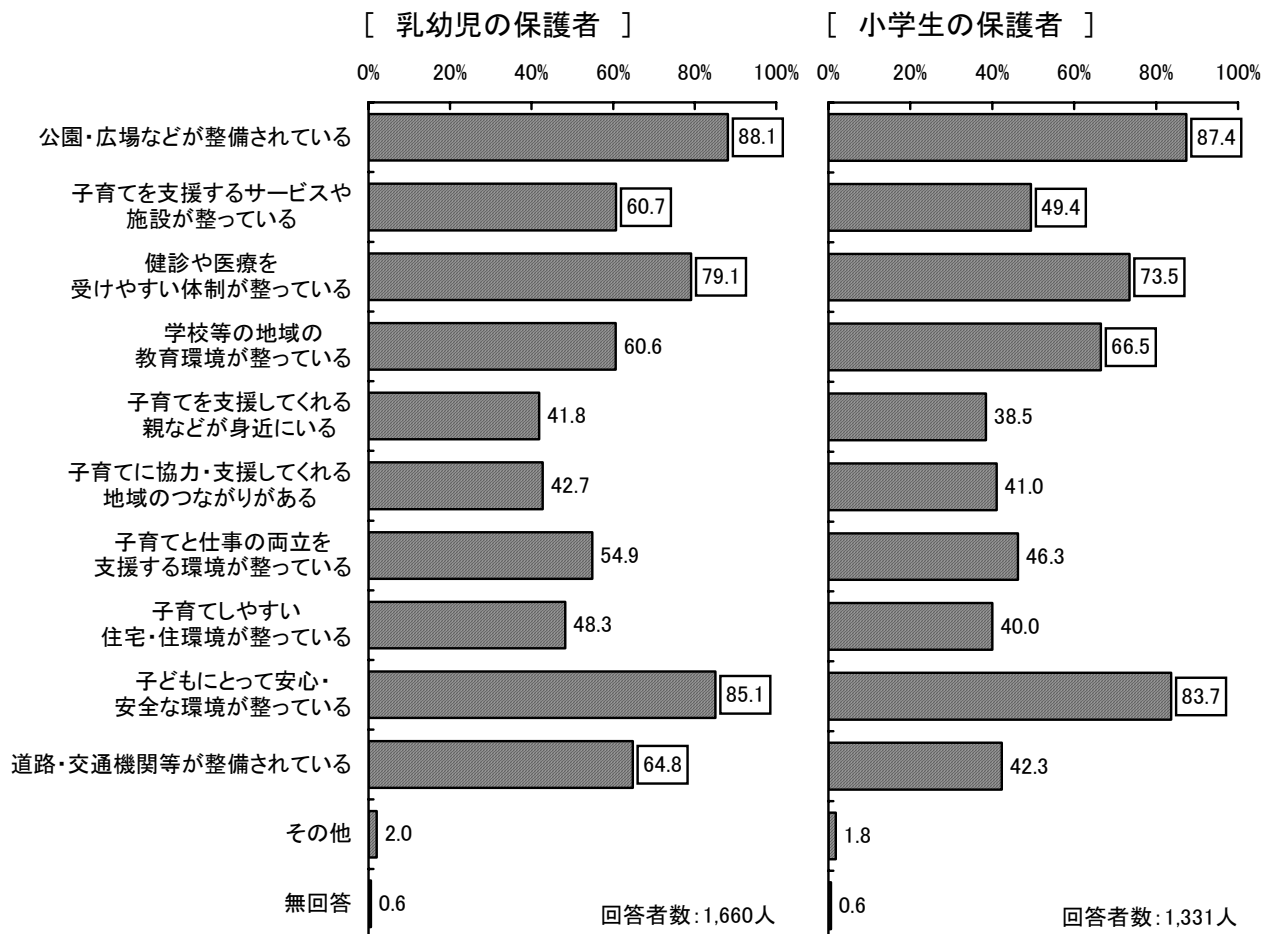
※: □ 囲みは、各調査の上位3位の値

(2) 子育てのために重視する環境

「公園・広場などが整備されている」「子どもにとって安心・安全な環境が整っている」「健診や医療を受けやすい体制が整っている」が重視する環境の上位3位。

直接的なサービス・支援ではない地域の生活環境が上位2項目にあげられている。

図表 38 子育てのために重視する環境(複数回答)



※: □ 囲みは、各調査の上位5位の値

(3) 江戸川区の子育て環境に対する評価

乳幼児の保護者の 88.0%、小学生の保護者の 90.5%が、全体的にみて、江戸川区は「子育てしやすい」と思うと評価している。

評価が高い子育て支援環境は、乳幼児の保護者では「公園・広場などが整備されている」「健診や医療を受けやすい体制が整っている」「子育てを支援するサービスや施設が整っている」。

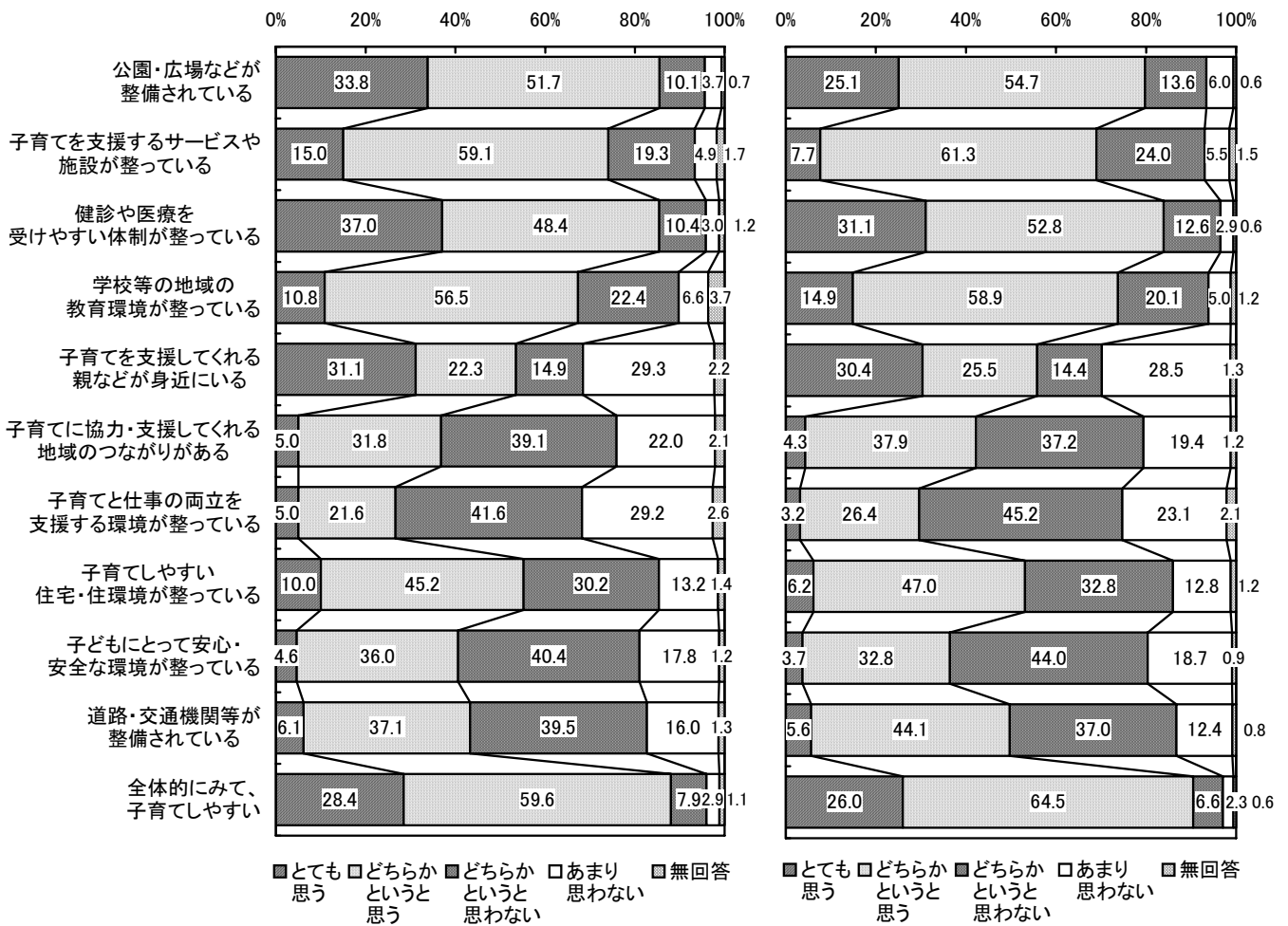
小学生の保護者では、「公園・広場などが整備されている」「健診や医療を受けやすい体制が整っている」「学校等の地域の教育環境が整っている」。

「公園・広場」「健診や医療体制」は、乳幼児・小学生の保護者の 8 割前後が評価している。

図表 39 江戸川区の子育て環境に対する評価(各単数回答)

[乳幼児の保護者]

[小学生の保護者]

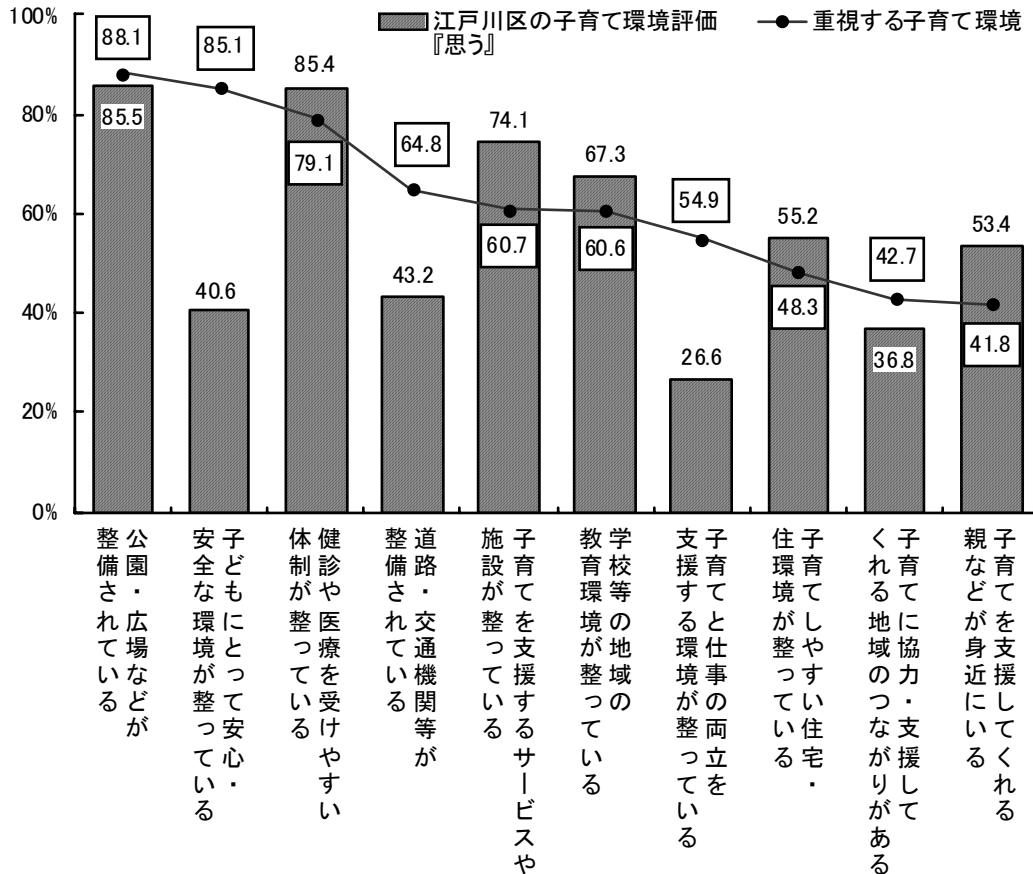


(4) 子育てのために重視する環境と子育て環境に対する評価の比較

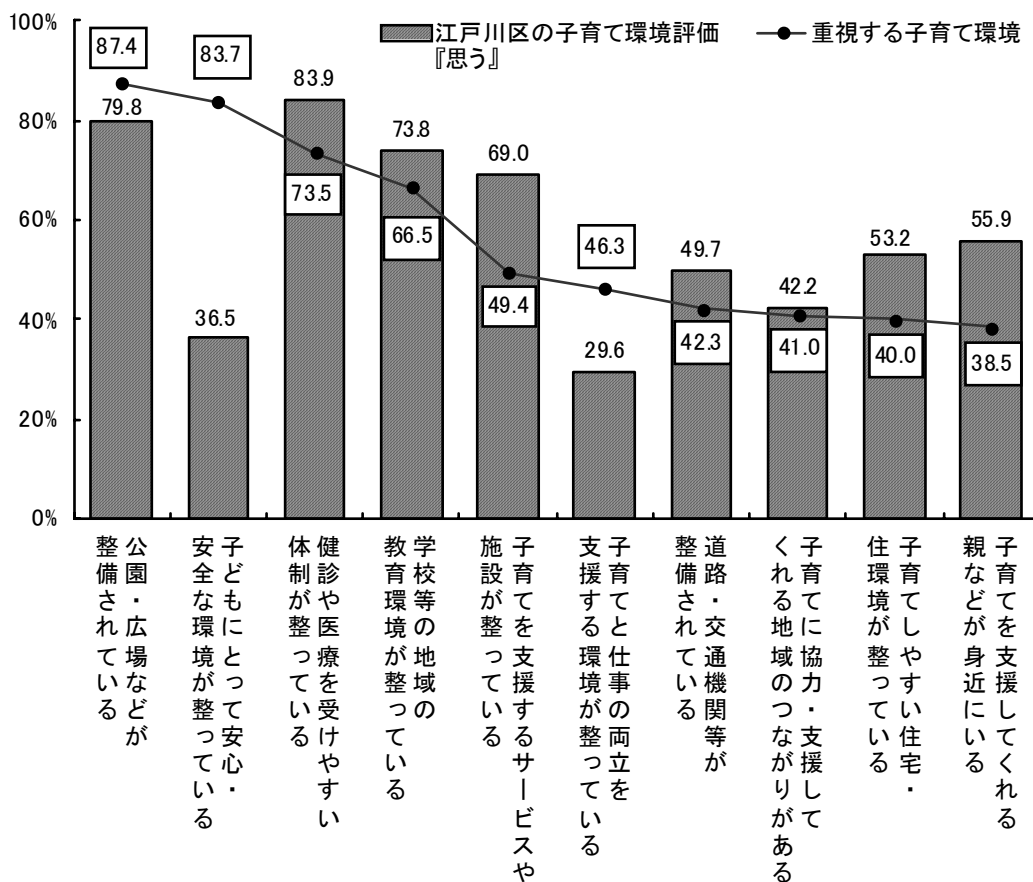
「子どもにとって安心・安全な環境が整っている」は、8割以上が重視しているのに対して、評価しているのはその半数以下と、ギャップが大きい。

「子育てと仕事の両立を支援する環境が整っている」「道路・交通機関等が整備されている」(乳幼児の保護者のみ)も、重視している割合に比べて評価している割合が低い。

図表 40 子育てのために重視する環境と子育て環境に対する評価の比較 (乳幼児の保護者)



図表 41 子育てのために重視する環境と子育て環境に対する評価の比較（小学生の保護者）



**江戸川区次世代育成支援のための基礎調査報告書
概要版**

平成 21 (2009) 年 8 月

発 行 江戸川区子ども家庭部子育て支援課
〒132-8501 東京都江戸川区中央一丁目 4 番 1 号
電話 : 03 (5662) 0659 FAX : 03 (5662) 4897

実 施 株式会社コモン計画研究所
〒166-0015 東京都杉並区成田東五丁目 35 番 15 号
THE PLAZA-F 2 階
電話 : 03 (3220) 5415 FAX : 03 (3220) 4417